

国語 (現代文)

東京大学 (前期・文科) 1/4

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

筆者が調査したタンザニアの行商人が行っていた商取引を、〈市場的な対価の支払い契約〉と〈時間・機会の贈与〉という二つの面から考察した文章。要旨は昨年度と比べてつかみやすかったであろう。設問は昨年度同様、五問であったが、解答を書きにくい設問もあった。設問の意図をしっかりとつかみ、解答の内容を絞り込む力が求められている。

<本文分析>

大問番号	第一問
出典 (作者)	小川さやか「時間を与えあう——商業経済と人間経済の連環を築く『負債』をめぐる」(佐久間寛編『負債と信用の人類学—人間経済の現在』2023年、以文社、第1部・第二章)の一節
頻出度合・的中等	入試では稀に出題される著者である。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・ やや増加 ・増加) 約3850字。昨年より約200字増。
難易 前年比較	難易 (易化・ やや易化 ・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第一問	文化論	(一)	記述	標準	傍線部理由説明問題。「理由説明問題」であることに留意し、「行商人たち」が「掛け売りを認めること」がどういう営みなのかを押さえたうえで、それが「商売戦略上の合理性」とつながる理由を考える。
		(二)	記述	やや難	傍線部理由説明問題。傍線部のように「主張する」ではなく「主張できる」理由が問われている点に留意する。
		(三)	記述	難	傍線部内容説明問題。傍線部の「生活全般」の内容がわかりづらいが、「商品支払い」と「贈与交換」の関係から解答の内容を絞り込んでいく。
		(四)	記述	やや難	傍線部内容説明問題。傍線部「回収させる」ということがどういうことを意味しているのかを考える。その際、「この余韻」が「ステップになる」という表現に留意する。
		(五)	記述	標準	例年どおり、三問の出題であった。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

様々なジャンルの評論を読み、そのテーマに関する理解を深めるとともに、文章の論理構造をしっかりと把握できるようにしたい。答案に書くべき要素を的確に捉え、簡潔明瞭にまとめる練習をしておこう。

国語 (古文)

東京大学 (前期・文科) 2/4

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

オーソドックスな出題であった。

<本文分析>

大問番号	第二問
出典 (作者)	『讃岐典侍日記』(藤原長子)
頻出度合 ・的中等	頻出出典。この箇所も近年他大学で出題されている。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約1080字。昨年より約180字減。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第二問 (文科)	日記	(一)			
		ア	記述	やや易	現代語訳。
		ウ	記述	易	現代語訳。
		オ	記述	標準	現代語訳。
		(二)	記述	やや難	内容説明 (「いつしかといひ顔に」を具体的に説明する)。
第二問 (理科)	日記	(三)	記述	やや難	内容説明 (言葉を補って説明する)。
		(四)	記述	標準	理由説明 (傍線部の直前の内容に注目する)。
		(五)	記述	標準	和歌の説明 (大意を説明する)。
		(一)			
		ア	記述	やや易	現代語訳。
ウ	記述	易	現代語訳。		
エ	記述	標準	現代語訳。		
(二)	記述	やや難	内容説明 (「いつしかといひ顔に」を具体的に説明する)。		
(三)	記述	標準	和歌の説明 (大意を説明する)。		

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

古文を読解する上で必要な知識項目を習得するとともに、文章を一語一語丁寧に読解する訓練をしておくこと。正確な現代語訳をするために、単語・文法の学習を厳密に行っておくことが大切である。解答を簡潔にまとめる練習も必要。また、和歌の学習もしておくこと。

国語 (漢文)

東京大学 (前期・文科) 3/4

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

例年どおり文理共通問題であり、今年度は随筆が出題された。設問数については昨年度同様に枝間を含めて文科6題、理科5題であった。また設問に関わる部分での送り仮名の省略は昨年度は4箇所だったが今年度はなかった。今年度は現代語訳の設問は大問にはなかった。例年どおり、答案を作成する際に内容を適切にまとめるのは容易ではない。

<本文分析>

大問番号	第三問
出典 (作者)	方東樹『書林揚鱗』
頻出度合 ・的中等	稀。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 214字。昨年は173字 (昨年より41字増)。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第三問 (文科)	随筆	(一)			
		b	記述	標準	現代語訳。文脈を的確に押さえる。
		d	記述	やや易	現代語訳。「毫末之損」との対比に着目する。
		e	記述	易	現代語訳。「偏」の意味を捉える。
第三問 (理科)	随筆	(二)	記述	標準	内容説明。「不得已」に注意しながら傍線部の内容を的確に捉える。
		(三)	記述	標準	内容説明。「無可疑、無可厭」とあることに注意する。
		(四)	記述	標準	内容説明。「斯義也」以降の内容を的確に捉える。
		(一)			
		b	記述	標準	現代語訳。文脈を的確に押さえる。
		c	記述	やや易	現代語訳。「毫末之損」との対比に着目する。
		d	記述	易	現代語訳。「偏」の意味を捉える。
(二)	記述	標準	内容説明。「不得已」に注意しながら傍線部の内容を的確に捉える。		
(三)	記述	標準	内容説明。「斯義也」以降の内容を的確に捉える。		

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

本格的な漢文の読解力が要求されているので、基本句形や重要単語の習得と十分な問題演習が必要である。加えて漢文の背景となる思想や歴史などの知識も学んでおきたい。
細心の注意を払って文脈を読み取り、簡潔で過不足のない答案を作成する訓練を怠らないこと。
漢詩もたびたび出題されるので、文科、理科ともに漢詩の対策も必須である。

国語 (現代文)

東京大学 (前期・文科) 4/4

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

フランス文学者で歌人でもある筆者による随筆からの出題。文学者や芸術家の随筆が使われるという傾向は例年どおりだが、ごく近年の文章が用いられたのは5年ぶりである。文章そのものは一見すると平易に感じられるかもしれないが、問われていることを的確な言葉で説明することは容易ではなく、解答に手間取った受験生も多かったと推測される。

<本文分析>

大問番号	第四問 (文科のみ)
出典 (作者)	菅原百合絵「クレリエール」(『群像』2023年7月号 講談社) より。
頻出度合・的中等	この筆者の文章が入試で使われることは稀である。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・ やや増加 ・増加) 約2190字。昨年より約140字増。
難易 前年比較	難易 (易化・ やや易化 ・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第四問	随筆	(一)	記述	標準	傍線部内容説明。外国語に対しては、いくら習熟しても母語に対するように接することは可能にならないということを、傍線部の表現に即して説明する。
		(二)	記述	標準	傍線部内容説明。設問にあるとおり直後の具体的な事例に即した解答を作ることになるが、傍線部そのものの内容もきちんと説明するようにしたい。
		(三)	記述	標準	傍線部内容説明。「悩みごと」について「外国語」で考えると、自身の瑕疵などが「検閲と抵抗をくぐり抜けて言葉になる」、という傍線部前後の内容を説明する。
		(四)	記述	やや難	傍線部理由説明。「静かな慰め」については本文に直接述べられていないので、筆者の言おうとしていることを自分で推測し説明することが求められる。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

文学者・芸術家のエッセイを含むさまざまなタイプの文章に積極的にふれ、高度な読解力を身につけること。出題者の要求をしっかりと把握し、解答の方向を正確に見定め、答えるべきことをわかりやすく簡潔な表現で自在に説明しうる表現力を養う必要がある。